

やってみました自主講座 鳴く虫の会の試み

吉田 滋弘（ひとはく連携グループ 鳴く虫研究会「きんひばり」）

はじめに

鳴く虫研究会「きんひばり」は『より多くの人を「鳴く虫が奏でる優美で幻想的な世界」へ誘い、その美しさを知らせ、昔ながらのゆとりある豊かな気持ちを広めていく』ことを目的に、人博の「鳴く虫インストラクター養成講座」の修了生が集い活動をおこなっています。

ここ2年間は人博内で自主的に鳴く虫の講座を開きました。特に2015年度には従来と違う対象者別の講座を開きましたので、その内容をご紹介します。

方法

- (1) 2014年度は従来からのインストラクター養成講座を継続
5名参加。2名がインストラクター登録するも、参加人数は増えない。（よくありがちな状況、工夫が必要と考えました。）
- (2) そこで対象者をしぼった講座を実施してみることに
 - 1) 6/16 初心者のための鳴く虫観察会 参加者4名
種類がまだ少なく聞き分けもらいやすい6月に実施できました。
 - 2) 9/5 小さい子どものための秋の鳴く虫観察会 参加者20名
夜の虫の観察を十分楽しんでもらえました
 - 3) 9/26 大人のための秋の鳴く虫観察会 参加者3名
小泉八雲「虫の演奏家」、詩花和歌集「虫のなみだ」の紹介



写真1 小さい子どものための観察会



写真2 ペットボトルによる採集

結果と考察

- (1) 対象者をしぼることで講座の内容がはっきりできて、うまく伝えられるようになった。
- (2) 参加者が何を求めて来られているかをつかんでおくの良いと思われる。
- (3) 子どもには子どもの特性があるので、無理に虫の名前と鳴き声を結びつけようとしないで肩の力を抜いた講座内容にしたい。
- (4) 参加者の理解を進めるための工夫として、「鳴く虫カード」を利用してみたい。
- (5) 今後、広報の仕方に工夫の余地がある。何らかの形でネット上に広報が出来るようにしたい。